

秋山孝ポスター美術館長岡 第9回企画展

「ノー・モア・フクシマ」を開催

秋山孝ポスター美術館長岡(長岡市宮内)では冬期休館を終え、春の訪れとともに2012年度の開館が始まった。21日からは第9回となる企画展「反原発ポスター「ノー・モア・フクシマ」」が6月24日まで開催している。

未来のために実現しなければならない。深刻な問題を現代社会にもたらしている。

同企画展は、反原発ポスター展実行委員会の協力を得て開催したもの。展覧会タイトル「ノー・モア・フクシマ」は、1945(昭和20)年の「ノー・モア・ヒロシマ」を思い起こし、重ね合わせられるようにつけたという。昨年3月11日に起きた東日本大震災は、地震、津波、原発の爆発と相次いだ。しかも原発の爆発事故は放射能を拡散させその被害はとどまるどころを知らない。地震や津波による災害とは異なり、解決の目処もたつ



「私たちに、未来のために実現しなければならないことがある。今がそのときだ」と、同館ではポスターを通して来館者に語りかける。

同館の開館時間は午前11時から午後5時まで。毎週火曜日が休館日となる。なお同館には駐車場がないため、公共交通機関を利用しなければならぬ。問い合わせは、同館(☎39-12333)へ。

歴史的な建物 2009年に開館した

館長である秋山孝氏は1952(昭和27)年、長岡市生まれ。イラストレーター・グラフィックデザイナー・イラストレーション学研究者である。

同館は、ポスターやイラストレーションを国際的に研究する美術館。建物は1975(大正14)年に建造された金融機関の店舗として使われてきたもの。歴史的な建物を

改修し、2009(平成21)年7月12日に開館した。

改修により外観も内装も一新した同館は、長岡市都市景観賞や新潟県建築士事務所協会奨励賞を受賞している。

同館では秋山氏の作品を展示するほか、研究発表や教育を目的とした展覧会を年3回開催している。また「美術館大学」と題した講演会は年5回開講する。

11月〜3月は研究調査、展示準備で閉館するため、開館期間は4月から10月までと限られるが、多くの市民や学生が来館、小規模ながら心に沁みる美術館である。

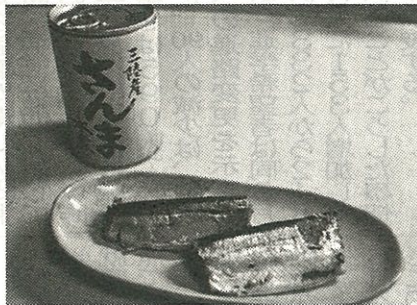
長岡商工会議所が調査

2012年の賃金

長岡商工会議所では1976年以降、賃金実態調査を実施している。調査項目は(1)従業員賃金(2)昇給(3)採用(4)役員報酬など。

長岡市内に所在する企業の賃金水準ならびに、新卒者の採用状況などである。各企業の実態から企業経営・労務管理の参考資料とするのが目的という。

三陸さんまの水煮



「さんま」を水煮で缶へと詰める。確かにこれならば長期保存も可能となるし、土産に周年重宝しよう。当然味も

いい湯めぐり

温泉紀行

震災復興「希望」の湯旅(5)

南三陸温泉

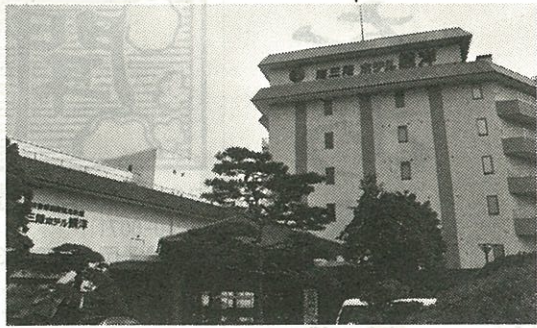
宮城県本吉郡

石巻市内陸部より、沿岸付近へ進む道。一歩一歩少しずつ、先ゆくことに景色は変わる。通行止め箇所多いゆえ、目的地へは迂回路を。迂回路整備や交通誘導、そこに関わる全ての人へ、頭を垂れずにいられない。そうして見えた大洋こそが、「希望の湯旅」で初めて出会う、震源となる彼の海だ。

「希望の湯旅」五回目を選んで湯場は、そんな南三陸町で湧き出る一軒。「南三陸温泉」の看板を背負った、「ホテル観洋」を舞台とした。このホテルも、当然多大な被害を受けたが、震災後はボランティア、今では通常旅行者を招き、努めて明るく振舞ってきた。

南三陸の源泉は、「ホテル観洋」

温泉 三陸 南三陸 南三陸 南三陸



「洋」が独占利用。泉質は海沿いに多い塩化物泉。温度が高く、頗る強い透明度。切り傷や皮膚病に効能を持ち、塩辛さが特徴の良泉である。浴室は男女別の内湯と露天。どちらの内湯と露天

風呂でも、大海原へ眺望が良く、震災後、露天風呂はしばらく閉鎖されていたが、今では確かに開放をみて、自慢の湯浴みを取り戻したよう。体に湧泉、顔に潮風、視界に海が広がることで、海洋地域の温泉を持つ、土地の魅力が存分に。しっかりと根を張るホテルの姿勢と、絶えず湧き出る自然の泉。その力強さ噛み締めて、こゝでは時間を使うとするか。

南三陸の味覚としては、やはり外せぬ海の幸。とりわけ「さんま」が良からうが、今は旬過ぎ、姿を見ない。それでもさすがは南三陸。「サ

「ホテル観洋」の駐車場より、眺める海は、志

